

# FIGO（国際産婦人科学会） & フランスの福祉制度を学ぶ旅

宋美玄 池田裕美枝

協力・サポート：社会調査支援機構チキラボ

## 日程

9日	<b>FIGO</b> 参加 パリ在住日本人ジャーナリストと情報交換
10日	<b>FIGO</b> 参加 薬局訪問
11日	<b>FIGO</b> 参加 <b>FNSF</b> (Federation Nationale des Sourds de France)訪問
12日	パリ在住社会学者&エデュケーターと情報交換 <b>Maison de Solenn</b> 訪問
13日	国連見学 <b>WHO</b> 訪問
(7日)	<b>Foundation Le Refuse</b> オンライン面談

# FIGO2023 @Paris 会長公演



3

- **3C: COVID, Conflict (紛争), Climate Change(気候変動)**
- 困難下にある女性・人々は、遠い国の誰かではなく、あなたの患者さんかもしれない
- **3Cs**に対して、我々産婦人科医師は科学の立場からアドボケイト（権利擁護）していく

- いかにして、「中絶」「避妊」「出産」の無償化を進めているか

パリ在住  
ジャーナリスト  
との情報交換

高崎順子さん  
&  
ジョフロワ江美さん

- 65%皆保険、残り35%は個々の保険により償還
- 18歳以上は、償還カードが個人発行されるために身内バレしない
- 中絶や避妊は別の救済保険で公費負担
- 緊急避妊薬は薬局にて処方箋なしで購入可能& 25歳以下で無料



## ■ いかにして、DV被害から、支援に繋げていくか

FNSF

(DV電話相談  
アソシエーション)  
オーロール・ルシャ  
さん

- 1992年～共通番号3919で相談を受ける公的機関
- 個別介入はしないで地域のアソシエーションを紹介
- 回復するのは本人の役割という位置付け
- 相談電話が少ない地域をカウント
- 女性デーなどを設けてキャンペーンすると電話件数は激増

## ■ いかにして、虐待対策を前進させていくか

パリ在住社会学者 &  
エドゥケーターと  
情報交換

安發 明子さん  
&  
パボさん

- 「虐待」ではなく「心配」な状況から介入
- 通告があると**3ヶ月間**の自宅訪問アセスメント  
→こども専門裁判官による介入の決定
- エドゥケーターと家庭支援専門員による家庭まるごと支援
- エドゥケーター資格は実習を含む**3年間**の履修課程と試験
- 夜廻りエドゥケーター、ネットエドゥケーターも行政の常勤職員



- いかにして、「性の自己決定権」へのアクセスを向上させるか
  - 性的健康は公衆衛生の中心的な目的
  - パリ市内に**24**箇所（パリ市直営**6** パリ市立病院**8** プランニングファミリーアル**10**）
  - 年齢・性別問わず匿名・無償で利用可
  - 未成年も保護者の同意なく利用可（場合によって立会人要）
  - 避妊、中絶、性機能障害、**HIV**と性感染症早期発見と予防、ボディイメージ、ジェンダーアイデンティティ、暴力と差別の根絶**etc..**

## 性的健康 センター

## ■ いかにして、子どものメンタルヘルスを向上させるか

Maison de  
Solenn  
マリー・ローズ・  
モロー  
精神科医師

- 若者のメンタルヘルスをサポートする公的機関
- 精神科医師、心理士、ソーシャルワーカーが駐在
- **11-18歳**の若者は平日**10-17時**まで予約不要、匿名、無料でカウンセリングが受けられる
- 電話相談、通所、入院も可能
- 通所施設はパリ市内に**11ヶ所**
- 音楽、アート、運動、料理、ラジオ番組作り  
etc...



## ■ いかにして、性的マイノリティの安全を守るか

Fondation  
Le Refuse  
エドワード・  
ジョワノー・テイラー  
さん

- 18-25歳までの、親から拒絶された性的マイノリティを支援する民間団体
- 運営費の7割が企業からの寄付 45名の常勤スタッフ
- 20年間で8000名が利用
- 心理サポート＋住居支援＋学費支援
- 年間7000名が住居を求めて連絡してくるが、運営している住居は200名ぶんのみ
- 同性婚をはじめ、法律が性的マイノリティの権利を擁護しているからといって、現実の全てがそうとは限らない(どの宗教・階層の家庭でも差別はある)

## 研修からの 5つの提言

1. 避妊・中絶についての環境改善
2. 包括的性教育&性的同意教育
3. 思春期精神保健センターの充実
4. **Transgender and gender diverse (TGD) 支援**
5. **Sexual Reproductive Health and Rights : SRHRを日本から世界へ**

# 1. 避妊と中絶 の環境改善

- 若年者が周囲の大人からプライバシーを守って安全に避妊できる環境整備
- 配偶者同意要件の撤廃
- 貧困対策としての避妊・中絶公費負担
  - 日本市民対象の調査でも**7～8割**が避妊・中絶公費負担に賛成
  - 日本の産婦人科医師の約**7割**も避妊・中絶公費負担に賛成



## 2. 包括的性教育 & 性的同意教育

- すべての子どもにも人権・自己表現・建設的対話に関する学びの機会を
- カリキュラム外での環境が肝
- 学力とともに、心理、社会面の育成にも多様な教育環境を

### 3.思春期精神保健 センターの充実

- 日本版**Maison de Solenn**設立
- 思春期の子ども、精神保健の専門家へのアクセスを改善（児童精神専門家の増員）
- 家庭のほかに、社会的関わりの中での心理ケア

## 4. Transgender and gender diverse (TGD) 支援

- 日本版性的健康センターの設置
- 性に関する相談機関の数&アクセスの拡充
- 性的マイノリティの心理・社会・経済的支援



## 5.SRHRを 日本から世界へ

- 日本での内服中絶薬承認、性的同意年齢引き上げ等の世界に対するインパクト
- 人口減少のすすむアジア先進国での**SRHR**のあり方について、もっと議論を